

F/T09

フェスティバル/トーキョー
PRESS RELEASE

『卵を立てることから—^{うねっ}卵熱』

山海塾

演出・振付・デザイン: 天児牛大

12月4日(金)~6日(日)

於: 東京芸術劇場 中ホール



©Masafumi SAKAMOTO

舞台奥に静かに降り続ける水と砂——。
卵をモチーフに、誕生、死、そして再生という“生命の連鎖”を
高い美意識の下に描き出す。
初演から20年を経た現在も世界中で上演され続ける
山海塾のマスターピース、
誰もが待ち望んだ8年ぶりの東京公演！

お問合せ: フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 <http://festival-tokyo.jp/>
〒170-0001 東京都豊島区西巢鴨 4-9-1 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内 TEL 03-5961-5202/FAX 03-5961-5207
制作担当: 米山淳一 j-yoneyama@anj.or.jp

／ 作品について

無限大のおだやかな闇夜に、命の孤島がぼつりぼつりと浮かぶ。これら卵が羊水の温もりのなか、かすかなエコーを響かせて思惟をはじめ——未知への好奇心、自然への驚き、そして誕生への快哉と終焉への歎き。生命のクロノス時間の砂時計のつぶがさらさらと落下しはじめると、それは同時に、ゆったりと厳かに風化していく肉体の死をも暗喩する。

誕生と死、生成と破壊。幸せな沈黙の殻を破り、生まれ落ちる満目騒音の世。命の残酷な両義性がここでは明快な修辞法で物語られる。静かな薄光のなか、天児牛大は、ふっくらと美しい卵とのひめやかなダイアローグをつむぐ。

人はこの茫漠たる宇宙において刹那の直立時間に戯れ、他者とのミクロの悲喜哀歡の絆をむすび、ふたたび孤独に横たわっていく。生まれては頹れ、頹れては生まれる。愛おしくも矮小な命たちが、永遠との対話をくりかえしていく。

／ 山海塾の傑作、8年ぶりの東京再演

『卵を立てることから—卵熱』は、1986年4月、東京・パリ友好都市交流事業のオープニング・プログラムとしてパリ市立劇場で世界初演された。パリの観客からの絶大な支持を得た本作は、現地メディアも大きく取り上げ高い注目を集めた。同年8月には、大谷屏風岩(栃木県・宇都宮市の採石場跡地)で日本初演。「太古の人たちの息づかいがどこからか聞こえてきそうな洞穴のなかで、それは生命の根源を思い起こさせる見事な表現」(朝日新聞)と評され、パリの初演から20年以上経った現在もなお、世界32カ国137都市で上演を重ね続ける山海塾の代表的な作品である。

舞台上には、四辺の回廊と、その内側に水をはったプール。舞台奥では水と砂が、静かに絶え間なく落ち続け、やわらかな光が水面にさすと、幻想的で美しい水紋が創出される。卵をモチーフに、5名の舞踏手が紡ぐ、受胎から誕生、死、そして再生へと、生命が連鎖して続いていくさまは、「生命へのレクイエム」とも評され、山海塾の主要なレパートリーとして、現在も世界を巡っている。

／ 公演評より

◆山海塾は、啞然とさせる想像力をみせつける。純粹な美に満ちた流れは、観客を静かな夢の中へ浸らせる。
(ル・フィガロ)

◆『卵を立てることから—卵熱』は、極めて芸術的、象徴的迫力に満ち、深い感動を呼び起こす。
(ル・マタン)

◆原初の素型としての卵との秘めやかな対話が始まる。楕円形の卵は、宇宙の素型の象徴であると同時に、肉体の、さらには靈的なものの素型の象徴でもあるだろう。宇宙の素型とは、永遠であり連続するものの素型であり、肉体の素型とは限界を強いられる不連続の素型の象徴でもある。

(アサヒグラフ)

/ シーンタイトル・創作ノート

卵を立てることから—卵熟

- I. コホー 彼方から
- II. 風 かすかな呼び声
- III. カレウラ 立てるか カレウラ
- IV. 産^{ムス}び 吸いとられた薄光
- V. 殻 割れることの始まり
- VI. むろ 粒子の面
- VII. コホー 彼方へ

素型から

ガランとした空間、全体をみわたす
任意の場所を選び
静かに生卵を直立させてゆく。対話。

一つの卵から、複数の卵へ、空間の中で増殖してゆく卵の割合。
固体から群へ
各々の卵は床面と一点で接し、素直に屹立している。
非常に楽な状態であるかのようだ。

場を専有する個体から場を分割しつつ保ち合う群まで
息苦しくならないところで作業を止める。

全体をみわたす。
地の中心に卵の垂線は向かい、放射状、上方にひかえるいくつもの線。

床面で止まっているダ円体がある。

それ等を倒さないよう歩行を試みる。
足は踵からゆっくりと床に置いてゆく。

それ等の正面、側面、背面、歩行に伴って変化する表情
向かいあい、かこまれ、後ろをとられる。

振り返ったときそれ等は消えてなくなり、ガランとした場所。

一つの旅

くり返される歩行。

/ アーティスト・プロフィール

天児牛大 Ushio Amagatsu

山海塾主宰・振付家・演出家・舞踏家



©Yuji Arisugawa

1949 年神奈川生まれ。75 年に山海塾を創設。『アマガツ頌』(77)、『金柑少年』(78)、『処理場』(79)を発表後、80 年に初めての世界ツアーを行う。81 年より、フランスおよびパリ市立劇場を創作の拠点とし、同年アヴィニョン・フェスティバルで『漢紀』を発表。82 年以降、およそ 2 年に 1 度のペースで、パリ市立劇場との共同プロデュースにより、12 作品(※)を発表している。来春、新作をパリ市立劇場にて発表する。

山海塾以外でも活躍する天児は、88 年に米国ジェイコブス・ピロー財団の招待でフィリップ・グラス作曲による『風姿』を発表。89 年には、東京のスパイラルホール(青山)の芸術監督に就任し、『アポカリプス』(89)および米国人ダンサーを使った『フィフス-V』(90)の構成・演出・振付をてがけた。92 年、バニョレ国際振付コンクールの審査委員長を務め、同年、フランス政府から芸術文化功労章(シュバリエ章)を受章。

オペラの演出も手がけ、97 年にはペーター・エトヴェシュ指揮によるバルトークのオペラ『青ひげ公の城』を東京国際フォーラムで上演。98 年には、同氏の作曲による新作オペラ『三人姉妹』(原作:チェーホフ)をフランス・リヨン国立歌劇場にて演出(世界初演)、フランス批評家協会最優秀賞を受賞した。なお、『三人姉妹』は 01 年 11 月にパリのシャトレ座にて、02 年 3 月にベルギー・ブリュッセルの王立ラ・モネ劇場、4 月にリヨン国立歌劇場、5 月に、オーストリアのウィーン・フェストボーヘンにて再演された。また 08 年 3 月、10 年ぶりに、ペーター・エトヴェシュ作曲による新作オペラの演出を手がけ、“Lady SARASHINA”(原作:菅原孝標女「更級日記」)を、リヨン国立歌劇場にて世界初演。本作で、再びフランス批評家協会最優秀賞を受賞した。09 年 2 月にオペラ・コミックにて再演。

<その他の受賞歴>

95 年 外務大臣表彰(山海塾)

01 年 第 33 回舞踊批評家協会賞(山海塾)

02 年 第 26 回ローレンス・オリヴィエ賞の「最優秀新作ダンス作品賞」(『ひびき』)

04 年 平成 15 年度芸術選奨文部科学大臣賞[舞踊部門](天児牛大)

07 年 第 6 回朝日舞台芸術賞グランプリ(『とき』)およびキリンダンスサポート(山海塾)

※パリ市立劇場との共同プロデュース作品

『縄文頌』(82 年)、『熱の型』(84 年)、『卵を立てることから一卵熟』(86 年)、『闇に沈む静寂ーしじま』(88 年)、『そっと触れられた表面ーおもて』(91 年)、『常に揺れている場のなかでーゆらぎ』(93 年)、『ゆるやかな振動と動揺のうちにーひよめき』(95 年)、『遙か彼方からのーひびき』(98 年)、『かがみの隠喩の彼方へーかげみ』(00 年)、『仮想の庭ーうつり』(03 年)、『時のなかの時ーとき』(05 年)、『降りくるもののなかでーとばり』(08 年)

／ カンパニー・プロフィール

山海塾 Sankai Juku

75年に主宰・天児牛大によって設立された舞踏カンパニー。80年より海外公演を開始し、82年からは、世界のコンテンポラリーダンスの最高峰であるパリ市立劇場(※1 THEATRE DE LA VILLE, PARIS)を創作活動の本拠地として、およそ2年に1度のペースで新作を発表している。

日本で生まれたカンパニーでありながら、82年以降の作品は、すべてパリ市立劇場との共同プロデュースによる。(※2)。厳しく作品の質を問う同劇場が、25年以上にも渡り共同プロデュース形式で創作を支援し続けているカンパニーは、世界でもわずかしかな存在しない。

山海塾の作品は、演出・振付のほか、空間や衣裳のデザインも総合的に天児牛大が創作している。天児は一貫して舞踏を「重力との対話」として捉えながら、「誕生」「死」といった普遍的な人間の内的本質に迫る。身体言語に基づく独自のアートフォーム(表現形態)を創りあげたこと、作品の普遍性、そして何よりもその表現の芸術的強度によって、世界各国できわめて高い評価を得てきた。

山海塾はヨーロッパだけではなく、北米、中南米、オセアニア、アジアなど世界43カ国のべ700都市以上でワールドツアーを行っている。01年5月には、ロンドンのサドラーズ・ウェルズ劇場(Sadler's Wells Theatre)(※3)で『遙か彼方からの—ひびき』を上演。同作は、02年2月15日、イギリスで最も権威のある舞台芸術賞であるローレンス・オリヴィエ賞(※4)の“最優秀新作ダンス作品賞”(Laurence Olivier Award for Best New Dance Production)を受賞。07年1月、山海塾の『時のなかの時—とき』が、年間のベストステージに対して贈られる朝日舞台芸術賞のグランプリを受賞。さらに、受賞対象となったダンス作品の中から選ばれるキリンダンスサポートが、山海塾へ贈られた。

※1 パリ市立劇場(Théâtre de la Ville, Paris)

パリのシャトレ広場に位置し、世界でも有数の質の高いプログラムをもつ劇場として有名。「コンテンポラリーダンスの殿堂」とも呼ばれ、上演される作品は、世界のダンス業界から高い注目を集める。

※2 共同プロデュース

パリ市立劇場と山海塾との共同プロデュース契約は、将来にわたる長期間の創作活動を保証するものではなく、新作発表の都度、次回の契約の有無が決定される。

※3 サドラーズ・ウェルズ劇場(Sadler's Wells Theatre)

イギリスにおける舞踊の中心的な役割を果たしている劇場。98年に新装オープンし、国際的でダイナミックなプログラムをロンドンの観客へ紹介し続けている。

※4 ローレンス・オリヴィエ賞

演劇・オペラ・ダンス等で優れた個人・団体へ贈られる、イギリスの歴史ある舞台芸術賞。76年に前身である The Society of West End Theatre Awards が創設され、84年に現在の名称となった。日本人では、85年に森下洋子氏が個人賞で受賞されている。オリヴィエ賞の作品賞を受賞した日本のカンパニーは山海塾が初。

/ キャスト/スタッフ

演出・振付・デザイン	天児牛大
音楽	YAS-KAZ、吉川洋一郎
舞踏手	天児牛大 蟬丸 竹内晶 市原昭仁 長谷川一郎
共同製作	パリ市立劇場、山海塾
初演	1986年 パリ市立劇場
共催 主催	東京芸術劇場(財団法人東京都歴史文化財団) フェスティバル/トーキョー

/ 公演情報

会場 東京芸術劇場 中ホール
(東京都豊島区西池袋 1-8-1 TEL03-5391-2111)

公演スケジュール

12/4(金)	12/5(土)	12/6(日)
19:00	14:00	14:00

上演時間 85分(休憩なし)

/ チケット情報

料金 指定席
一般 S席 4,500円/A席 3,500円
学生 3,000円/高校生以下 1,000円(A席のみ。要学生証提示)

前売開始 2009年9月5日(土)

お取扱い ○F/Tチケットセンター 03-5961-5209(12:00-19:00)
※前売開始日9/5(土)のみ10:00より受付
○F/Tオンラインチケット(要事前登録・無料)
<http://festival-tokyo.jp/>(パソコン)
<http://festival-tokyo.jp/m/>(携帯)
※モバイルサイトは9月より開設予定
○F/Tステーション(東京芸術劇場前)
※10月後半より取扱い予定
○電子チケットぴあ 0570-02-9999
(Pコード予約:397-085) <http://pia.jp/t/>
○イープラス <http://eplus.jp/ft09/> (パソコン・携帯)

* 回数券、セット券、ペア券など、F/T チケット情報詳細につきましては、F/T 全体チラシまたは F/T 全体リリース、HPをご参照ください。

／ 写真/クレジット一覧

『卵を立てることから—卵熟』



©Masafumi SAKAMOTO



©Minako ISHIDA



©Minako ISHIDA



©Sankai Juku



©Sankai Juku

ポートレート:天児牛大



©Yuji Arisugawa

- ・ご利用になる場合は、写真家のクレジットを必ず併記してください。
- ・原則、トリミングおよび加工は不可。